

助産学専攻科「助産診断技術学演習」の紹介

助産診断技術学演習は、妊娠分娩産褥期を通じて臨床判断能力を身につけ、助産学実習において継続した助産ケアを展開するために必要な知識・技術について学んでいます。

演習室には、実際に医療機関で使用されている超音波装置、分娩台、分娩監視装置などを設置しています。アクティブラーニングに活用できる周産期全身シミュレータも導入しており、自ら考え、チームで意見を出し合い、実践を重ねることができる環境を整えています。また演習には複数の教員が関わることで、きめ細やかな指導を心がけています。

今年度履修した助産学生からは「演習事例での学びを積み重ねることで、対象者の生活や背景についても考えることができるようになった。」「先生が学生一人一人に丁寧に関わってくれるので、場面における判断力や個別性に配慮したケアなどについて力をつけることができた。」「事例について学生間でディスカッションし、一緒に練習を重ねることが楽しかった。」という感想がありました。

いよいよこれからは、病院での実習です。お母さんと赤ちゃんの2人の命と向きあう責任を胸に実習に臨みたいと思います。

助産学専攻科 教員

